AIを使った投資の話

2021 年 9 月 2 日
西九州ミッションステーション
佐々木正昭

かなり昔のことですが、宗教改革者の一人であり、著名な神学者であるヨハネス・カルヴァンが「正当な労働によって得られた富は神からの祝福である」といった趣旨のことを語った、と伝えられています。この考えは旧約聖書の時代からすでに存在しており、必ずしもカルヴァン独自の発想ではありません。実際に彼がそう発言したかどうかも疑わしいところです。

しかし、19 世紀から 20 世紀にかけて、日本では碩学マックス・ヴェーバーが「カルヴァンの言葉が近代資本主義の基礎を築いた」と語ったと言われてきました。けれどもヴェーバー自身はそのようなことを言っていません。おそらく後世の人々が、自分たちの都合に合わせて広めた説なのでしょう。

「正当な労働によって得られた富」という表現自体、どこか怪しいものです。社会に法がほとんど効力を持たなかった時代なら意味を持ったかもしれません。しかし近代でも、中世でも、そして現代でも、この論理は成り立たないでしょう。それでも人間は、どうにかしてそれを正当化しようとしてきました。

「正当な労働」とは誰が決めるのか。法律だと言うなら、その法律を作ったのは誰か。金と権力を持った人間です。貧しい人、弱い人、教育を受けられなかった人々には、法律を作る力はありませんでした。権力者たちは自分に都合のよい法律を作ったのです。植民地時代には、いつも帝国主義国が法律を定めました。その遺産は今なお残っています。チョコレートを一度も食べたことのない貧しい人々が、白人の植民者によって作られた法律のもとで自分の畑を壊され、カカオの木を植えさせられ、食べるものもほとんど残らない状況に追い込まれたのです。私は長年こう言ってきました。「チョコレートを食べるなら明治のチョコを食べなさい」。なぜなら明治は、少なくても、カカオ農家自身がチョコレートを食べられるよう、富の公正な分配を考慮した経営を心がけてきたからです。

金と権力を持つ者が、自分に都合よく法律を作る傾向は、時代や国を超えて普遍的です。現代日本も例外ではありません。規模は小さくても、法律に影響を与える圧力団体すら存在します。私たちはそのような法律に欺かれてはなりません。金も権力

もなくとも、せめて意識だけは高く保ちましょう。いつの日か、それは必ず価値を持つはずです。

さて、近ごろ日本では AI を使った投資が話題になっています。著名な政治家、実業家、そして日本銀行の総裁までもが広告に登場して宣伝していました。あまりに派手な宣伝だったので、何でも首を突っ込みたがるこの好奇心旺盛な牧師は、思い切って申し込んでみました。それは、かつて総理大臣になりかけた高市早苗氏と、「ホリエモン」の愛称で知られる堀江貴文氏が、共同で推していたプログラムでした。最初に 4 万円ほど投資すれば、毎月 50 万円から 100 万円も儲かると言うのです。「完全に合法で、違法性は全くありません」とも、保証していました。

しかし私は化石老人で、PC もスマホもまともに扱えません。申し込みをすると電話がかかってきました。片言の日本語を話す外国人男性で、スマホを操作するよう指示されましたが、どうしてもうまくいきません。1 時間以上試して、結局諦めました。その後、50 回近く電話がありましたが無視しました。むしろ「高市さんや堀江さんの出演も、AI で作られた映像だったのではないか」と疑い始めました。

さらに、日銀総裁が宣伝していた別の AI 投資にも申し込んでみました。ところが実際にかかってきたのは、またしても片言の日本語を話す、今度は外国人女性。指示通りにやっても、やはり何も動きません。忙しかった（？）ので電話を切りました。再び数十回の電話がありましたが、すべて無視。しかもその電話元の会社名は、高市氏のプログラムを宣伝していたところと同じで、違ったのは最初の投資額だけでした。つい昨日、9 月 1 日まで電話は鳴り続きましたが、着信拒否に設定してようやく静かになりました。

本物かどうかは、実のところどうでもよかったのです。ChatGPT に調べてもらったところ、アメリカでも同様の勧誘が大問題となっていて、多くの政府機関が警告を発していると分かりました。日本でも消費者庁などが注意喚起を出しています。私の本当の関心は、このような仕組みの不道徳さと不誠実さにあります。わずかな金を投じるだけで、労働もせずに莫大な利益が得られる。これは「人間としてどう生きるか」という問いを突きつけていると感じるのです。

「投資だから直接的に誰も傷つけていない」と言う人がいるかもしれません。しかし、あのカルヴァンの言葉とされる「正当な労働によって得られた富は神からの祝福である」と比べても、これははるかに悪質です。

「法律に違反していなければ正しい」というのは、まったくの誤りです。法律の抜け穴をうまくくぐれば、正義になるのでしょうか。ロッキード事件に関わった元検事で、弁護士となった堀田力氏が、「法律とは倫理の最低ラインだ」と言う意味のことを、語ったことがあります。つまり、「法律に触れなければ正しい」のではなく、「法律はこれ以下に堕ちてはならないという最低の基準」である、ということです。もしそうなら、労働を一切せずに金を儲けることは、人間として倫理的に許されない行為ではないでしょうか。

え！　何ですか？「もし私が PC やスマホを使いこなせたら、どうしたか？」ですか？　実は数か月ほど試してみて、もし儲かったら、AI から遠いところで暮らす貧しい人々の、生活を支援するために寄付しようかとも考えていました。でも、あまり気乗りがしなかったので結局やめたのです。

私がそう考えたのは、理屈ではなく、理性より先に内なる感覚が「ノー」と言ったからです。私の人間性・・・・神のかたちに創造された本来の人間性が・・・・「それをしてはいけない」と警告していたのです。